

令和2年度 第1回 甲賀市学校給食センター運営委員会次第

日時：令和2年7月30日(木) 14:30～15:33

場所：西部学校給食センター 2階 研修室

出席委員：

宮治喜代司委員、高濱隆志委員、渡邊磨樹委員、森田元貴委員、洞有希委員、
緩利由佳委員、隠岐良達委員、長嶋房代委員、村田喜代美委員、石橋智子委員

欠席委員：

大杉真由美委員、中井美香委員、大友一枝委員、鶴山幸喜委員、宇田勝弘委員、
今村陽一委員、野崎昭彦委員

関係者：

教育委員会 西村教育長、山本次長 乾次長

学校教育課 中井課長

東部学校給食センター 井口所長、増山栄養教諭、辻栄養教諭

西部学校給食センター 藤井所長、吉田栄養教諭、徳地栄養教諭

事務局：

教育総務課 谷課長、山本係長、河部主事

傍聴人：3名

1. 開 会（司会：事務局）

黙祷

市民憲章唱和

2. 運営委員会委員委嘱状交付

3. あいさつ（西村教育長）

4. 自己紹介

5. 運営委員長・副委員長の選出【P3～7】

規則第7条に基づく

・委員長 宮治喜代司委員

・副委員長 渡邊磨樹委員

6. 議 事 議長（宮治委員長）による進行

議長・副議長あいさつ（宮治委員長、渡邊副委員長）

(1) 各学校給食センターの概要および給食献立について【P8～11】

（説明 学校給食センター 所長 栄養教諭）

各学校給食センターの現在の配食数、配食先、主食、副食、地場産物の使用、職員数、業務委託、給食献立等

学校給食について

・学校給食は、学校給食摂取基準をもとに栄養管理をしている。多様な食品を適切に組

み合わせるよう配慮し、旬の食材を使うよう心がけている。

・東部学校給食センターの献立表では、7月1日の琵琶湖の日には琵琶湖でとれた小鮎を使い、琵琶湖の恵みを味わう機会とした。また、不足しがちな栄養素をたくさん含む食材を意識的に使った献立も実施しており、2日のファイバー君の日は食物繊維、8日の鉄ちゃんの日鉄、9日のカルちゃんの日カルシウムをテーマとしている。

・6日のかみかみ献立は噛み応えのある食材を使っている。7日の七夕献立等、行事食も大切にしている。13日の献立はさまざまな地域の郷土料理や食材をとりいれているもので、7月は三重県の料理や食材とであう機会とした。

・食育の日である19日前後では、ふるさと献立を実施しており、甲賀市や滋賀県の食材、郷土料理をとりいれた献立にしている。給食では、甲賀市産の米、滋賀県産の牛乳、できるだけ多くの甲賀市産の野菜を使っている。

また、この日のふるさと汁にも使っている味噌は甲賀市産の大豆と米を使い、梅干しは甲賀市でとれた梅を使って地域の方が作ってくださった物である。

・かみかみ和えには甲賀市の特産物である水口かんぴょうを使った。

・ふるさと汁には、甲賀市で採れた玉ねぎ、滋賀県産の大豆を使った油揚げを入れた。

・これからも、おいしく楽しく食べられて、教材となる給食になるよう努める。

～ 質問・意見等 ～

委員

献立について、子どもたちに対してアンケートなどは行っているのか。

栄養教諭

学校給食センターとしては行っているわけではないが、各学校で取り組んでいるアンケートを参考にしたり、食缶の中の残菜を見て傾向をつかんでいる。直接学校を訪問し、子どもの様子を見ながら把握している状況である。

委員

前回の委員会でも同様の意見がでており、学校長が毎日検食簿に書かれているように、週1回でも給食委員等から意見を聞くような取り組みを行ってはどうか。

栄養教諭

検討していきたい。

(2) 食物アレルギーの対応について【P12】

(説明 事務局)

・西部学校給食センター、東部学校給食センターにアレルギー対応のための調理室を整備した。

・令和2年度からアレルギー対応食の提供を開始するため、養護教諭、栄養教諭、学校長による検討会で、対応内容の検討を行った。

・令和2年度は、主食はパン・麺の代わりに白ごはん、副食は卵の対応食を提供する。

・新型コロナウイルス感染症に対する対応として学校が3月から休業していたため、6月から提供予定を変更し、給食提供開始から約1か月後の7月から提供開始となった。

・学年・名前等をはった専用の容器を使用し、容器から移し替える場合は、対応食用の

緑色の容器を用意している。

- ・今後、学校、給食センターと連携して、よりよい制度としていきたい。

～ 質問・意見等 ～

委員

食器に移すのは、本人がするのか。

事務局

本人もしくは担任が行う。

委員

ほかの子は触らないのか。

事務局

触らない。

委員

卵のアレルギーについて、厚焼き玉子などの献立はわかりやすいが、つなぎに使用している献立の場合はどうするのか。除いて食べるのか、対応食があるのか。

栄養教諭

つなぎに卵を使うような献立は作っていない。

(3) 給食費について【P13～14】

(説明 事務局)

給食費の負担について

- ・合併以来、園 1,800 円、小学校 3,500 円、中学校 4,000 円。改定を行っていない。これまでから、委員会でも給食費について意見をうかがっており検討を行っていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、それに伴って経済状況が悪化もあり、検討課題となっている。

給食費の滞納状況

- ・令和元年度給食費は、309,037,950 円のうち 308,145,170 円が収納され、99.71%の収納率、滞納額は、892,780 円
- ・過年度の滞納額は、15,026,088 円
- ・滞納対策について、督促状の発送ほか、例年教育総務課による滞納者宅の訪問で納付を促している。しかし、毎年であれば実施している訪問は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から控えている。状況をみながら、学校と協力し、電話連絡などの方法で徴収していく。

～ 質問・意見等 ～

- ・特になし

(4) 新型コロナウイルス感染症に対する対応状況について【P15】
(説明 事務局)

- ・小中学校の臨時休業により、給食を休止することとなった。6月4日から給食提供を再開している。
- ・給食を休止したことから、多くの給食の食材が不要となった。キャンセルできない食材については、市内福祉関連事業所への提供をはじめ、市内に本部があるフードバンクびわ湖へ寄付をし、市内で活用いただいた。
- ・今後は、市と市社会福祉協議会、フードバンクびわ湖が結んだ連携協定を活用し、フードロスがないよう対応する。

～ 意見交換等 ～

○新型コロナウイルス感染症に対する学校給食センターでの対応について

委員：

感染症防止のために、学校でもマスクや手洗いなどいろいろ対策を行っているが、食べ物をあつかっている給食センターで特に気をつけていることを教えて欲しい。

学校給食センター所長：

調理や洗浄を委託している業者については、新型コロナウイルス感染症対策のためだけでなく、常から衛生管理を徹底している。

また、手洗いして消毒すること、調理場に入る場合にはホコリも入らないようにして徹底して調理している。

事務所の職員、配送の運転手についても、手洗いの徹底、マスクの着用、清潔な白衣を使用している。

食べ物についても、普段から調理員は二枚貝を食べないなど食中毒に注意している。

○新型コロナウイルス感染症陽性者・濃厚接触者確認時の給食センター稼働停止対応について

委員：

学校では、担任の先生を中心に新型コロナウイルス感染症対策を万全にして、向かい合わないように座り、静かに給食を食べていると子どもたちから聞いている。給食についてコロナの対策は考えられていると感心している。万が一、給食センターの職員で新型コロナウイルス感染症の陽性がでた場合、もしくは濃厚接触者に該当するといった場合は、給食センターは稼働停止するのではないかなと思うが、感染時の対応マニュアルはあるのか。

学校給食センター所長：

実際、新型コロナウイルス感染症の陽性がでた場合には、市の方針、保健所の指示に従って対応することになる。感染症の陽性、濃厚接触者がでた場合には、状況により判断するが、給食を停止して清掃することは必要となると考えられる。マニュアルとしてはないが、市の対策会議、保健所の指示に従って対応することになる。安全・安心な学校給食の提供をするためには、稼働停止することも想定している。

(5) その他

- ・特になし

【委員長からその他意見交換をよびかけられるがなし】

委員長：

ありがとうございました。皆様のご協力のおかげで議事の全て終えることが出来ましたので、ここで、議長と副議長は退任させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

7. 閉 会

あいさつ（教育総務課 谷課長）

15:33 終了